

親鸞聖人略年表

西暦(和暦)	年齢
1173 (承安3)年	1歳
1181 (養和1)年	9歳
1201 (建仁1)年	29歳
1204 (元久1)年	32歳
1205 (元久2)年	33歳
1207 (承元1)年	35歳
1211 (建暦1)年	39歳
1214 (建保2)年	42歳
1224 (元仁1)年	52歳

事柄

誕生、父は日野有範。  
 青蓮院で出家。比叡山で20年間、堂僧として修行。  
 比叡山において、六角堂に参籠。法然上人と出会い、専修念仏に帰す。  
 『七箇条制誡』に「僧緯空」と署名。  
 法然より『選択集』の書写を許され、法然の真影を図画する。  
 承元の法難。専修念仏の停止、越後(新潟県)へ流罪となる。  
 流罪を許される。その後、関東に赴く。  
 上野国佐貫(群馬県)で「三部経」千部読誦を発願、やがて中止。常陸(茨城県)へ向かう。  
 『教行信証』草稿本が完成。  
 60歳頃、京都に帰洛する。  
 『浄土和讃』、『高僧和讃』を著す。  
 『唯信鈔文意』を著す。  
 息子・善鸞を義絶。  
 『一念多念文意』を著す。  
 『正像末和讃』を補訂。  
 入滅。

ナゴヤごえんきキャラクター

ちづる  
「千鶴ちゃん」



名古屋別院報恩講は12月13日〜18日  
 ぜひお参りください。

真宗大谷派名古屋別院

〒460-0016  
 名古屋市中区橘2-8-55 tel.(052)321-9201 fax.(052)321-3184

東別院ホームページ「お東ネット」

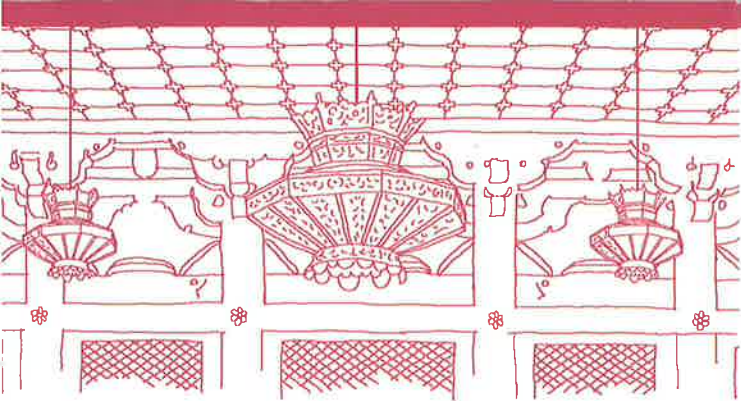
[www.ohigashi.net/](http://www.ohigashi.net/)

お東ネット 検索

<http://www.facebook.com/ohigashi.net>

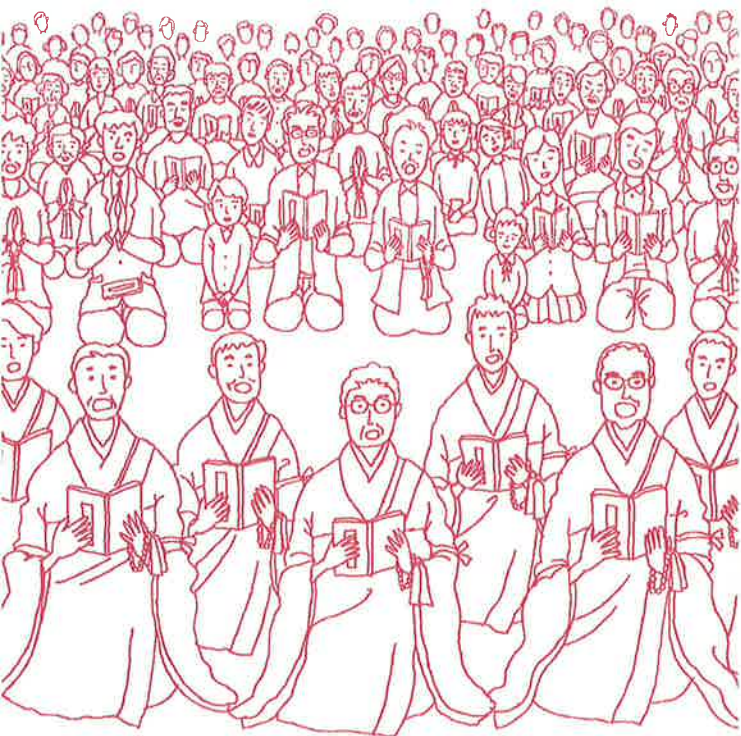


(通信欄)



報恩講

ほうおんこう



# 報恩講——歴史への参画——

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

報恩講の御満座で勤められる「恩徳讃」です。宗祖親鸞聖人がお作りになった『正像末和讃』の最後に置かれています。この和讃からはつきり分かるように、親鸞聖人ご自身が、報恩の人でした。「報ずべし」「謝すべし」は他の人への呼びかけでもありますが、誰よりも宗祖自身が聞いている言葉です。

自分中心の物の見方にとらわれて、得か損か、良いか悪いか、役に立つか立たないかに振り回されやすいのが人間です。特に現代は、経済的利益が最優先され、いのちですら値段で計ることも起きています。そんな生き方を痛まशीいと教えてきたのが仏教です。

ただ、自分中心の見方を止められるかと訊かれれば、難しいのではないでしょう。人を育てているつもりで、自分の枠組みに当てはめようと躍起になることも起きるからです。宗祖は若き時代の二十年間を比叡山での修学に励まれました。清らかな心になろうと修行を重ねるのですが、自分の心がいかに汚れているかが見えてきたのです。その求道が法然上人との出会いに結びつきます。

法然上人との出会いは、法然上人にまで届いてきた仏法の歴史との出会いでもありました。時代や国が違ってても、本当に安心して生きたい、満足して人生を送りたいという願いは誰にもあります。そんな願いを大切に、仏教に問い尋ね、仏教に生きた先達がいたことに改めて出会ったのです。修行できるかできないかを超えて、誰の上にも成り立つ道との出会いでした。

過去の歴史との出会いは、未来につながる今を生きている自分自身の課題を明確にします。親鸞聖人は過去の人々を念じ、未来の人々に思いを馳せながら、現実の中を人々と共に生きられた方です。いわば、迷いを繰り返す人間の歴史の中にある自分を見出し、仏教の歴史に参画なさったのです。

報恩講は宗祖親鸞聖人の御命日を縁として勤める法座ですが、宗祖ご自身が先達の恩徳を頂いておられたことを忘れてはなりません。この宗祖の生き方を訪うところに、私たち自身がどう生きるかが問われます。報恩講は、生き方を確かめさせていただく大切な日です。報恩講をお勤めして終わるものではありません。今日から新たに歩み出す始まりをたまわるのです。